

特集：卒業

ご卒業おめでとう。

廣田 充（筑波大学 生命環境系）

心躍る（学生も踊る？）桜の時期が終わりを告げ、皆さんが4年間を過ごしたつくばは、緑薫る爽春の頃といったところです。木々の枝先には、小さいけど確かに淡い緑色の葉がたくさん見られます。この小さく淡い緑色の葉を目にすると新しい季節の始まりを感じます。ですので、私はこの小さい緑色の葉が見られる今の時期が大好きです。

皆さんを送り出してから、はや1ヶ月が経とうとしています。学内を慣れない様子で出来たばかりの友人らと連れ立って歩く新入生らしき学生さんを目にすると、4年前の皆さんを思い出します。私にとっては本当にあっという間の4年間でした。皆さんは、いかがだったでしょうか。この4年間は充実していましたか。大いに学び、遊び、そして青春を謳歌出来たでしょうか。サークル、恋愛、勉強、あるいはアルバイト等、やりたかったことは思う存分出来ましたか。では、現在はどうでしょうか。それぞれ新しい環境に入ったと思いますが、皆さんが思い描いていたことが出来ているでしょうか。学生時代も、そしてその後も全て思い通りに出来ている、あるいはそのように実行してきたという方もいるかもしれませんが、そうでない方もいるのではないかと思います。私自身は、断然後者側の学生でしたが、それでも大学生時代は本当に楽しかったと思っています。しかも、時が経てば経つほど、そう感じるのですから不思議です。皆さんにとっても、この4年間は今思っているよりもずっと魅力的で忘れられない貴重な時間になると思いますので、今後楽しみにして下さい。

私は、4年間担任をさせて頂きましたが、高校生と見紛うような皆さんと出会い、その皆さんが成長する様子もみることができ、とても貴重な体験をさせてもらったと感じています。たったの4年間でしたが、考えさせられることもたくさんありました。皆さんと年齢的にも近く、教員としても研究者としても半人前の私ですが、そのうちの二つを、卒業される皆さんへの贈る言葉にしたいと思います。

一つは、人のつながりです。高度情報化社会の中で育った皆さんはあまり意識しないかもしれませんが、人のつながりは、とてもとても大切です。人見知りだとか苦手だとか、あるいは面倒だとか色々な言い訳はあるでしょうが、人とのつながりをこれまで大切にしてくれている方もそうでなかった方も、どうか大切にしてください。社会システムが如何に変わろうとも、その主役は血の通った人であり、人と人との交流・つながりが無ければ何も始まらないのです。それでもできればSNS等の便利で早いデジタル化されたつながりではなく、アナログなつながり・交流を大切にしたいです。皆さんは意識しなくとも、既に何らかのつながりの中にいます。それらのつながりを、そして今後新たにできるであろうつながりも大切にしていってください。

二つ目は、学ぶことです。クサイことを言うようですが、学ぶことはとても大切に貴重なものです。皆さんのなかには買ったばかりの本のページをめくるように、学び新しいことを知る楽しみがやめられない方もいるでしょう。一方、ようやく学ぶ（学ばされる？）ことから解放され、晴れ晴れとした気持ちの方もいるかもしれません。学ぶことに対する気持ちは、十人十色だと思います。でも、皆さん全員に共通していることが一つあります。それは「学び方を知っている、学んだ」ということです。分からない事象にぶつかったときに、何を、どう調べれば良いのか？どこを調べれば正しい知識にたどり着けるか？その方法を学んだ、ということです。そんなことは、どこの誰でも出来ると思っているかもしれませんが、でも、残念ながらそうではありません。皆さんのように、色々な情報に容易にアクセス出来るうえに、学び方まで知っているという人は以外に少ないのです。私は色々な国や地域に行くたびに、この日本という国が教育という面で自由であること、恵まれていることを強く感じます。世界中には、そうしたくても出来ない人がたくさんいるのです。そういった現実を考えると、皆さんは、学ぶことに関して選ばれし集団と言えるかもしれません。皆さんはその気になれば、いつでもどこでも学べます。そして、この大学生活で、その方法も学びましたね。気が向いたときに、自分の好きなことから良いですから、この“特権”を十分に生かして、今後もたくさん学んでください。

春先に出始めた葉は、徐々に大きくなり、涼やかな日陰を作るくらい生い茂ります。そして息が白くなる頃には色づき始め、最後には落葉します。葉のない裸の木を見ると少し寂しい気もしますが、それは、同時に新しい芽吹きスタートも意味します。何かが終わらないと新しいことは始まらない、始められないものです。淡い緑色の小さな葉を見るたびに、皆さんの卒業は、新しい始まりなのだと感じています。

皆さんのさらなる飛躍を祈念しています。ご卒業、おめでとう。

Contributed by Mitsuru Hirota, Received April 16, 2014.